

財務省税関の業務

安全安心な社会を実現するために
Customs ensures the safety and security of Japanese society

財務省税関の業務
安全安心な社会を実現するために
Customs ensures the safety and security of Japanese society

:: 空港旅具

空港から安全・安心な社会を守る



東京税関成田税関支署統括監視官
(旅具通関部門担当) 付

大須賀 みどり

平成29年一般職(大卒程度) 行政

私は東京税関成田税関支署旅具通関部門に所属し、成田空港から出入国する旅客の手荷物に対する検査を行っています。海外旅行の経験がある方は、日本に入国する際に税関に携帯品申告書を提出したことが記憶にある方もいるのではないのでしょうか。普段、国際貿易に関わりの方であっても、自分の手荷物について申告を行う場として最も税関を身近に感じることができる部門が旅具通関部門です。当部門で働く職員は税関の顔として、使命感をもって検査業務に従事しています。

税関検査では、法律で定められた輸入してはならないものなどの取締りや関税等の徴収を行います。輸入してはならないものとは、覚醒剤、大麻、麻薬及び向精神薬といった不正薬物から偽ブランド品、銃器・爆発物といったテロ関連物資等、多岐にわたります。旅具通関でこのような物品の取締りや徴税を行う際には、旅客の協力を得て、質問をしながら検査を行います。検査官として対応するには幅広い知識が必要となり、責任も大きい業務です。

税関における令和2年の不正薬物全体の押収量は5年連続で1トンを超え、2トンに迫る過去3番目を記録しました。国際貿易の振興によって私たちの生活が豊かになる反面、不正薬物等の密輸が後を絶たないのも事実です。

旅具通関は、こうした密輸の場面に関わることも多く、緊張感のある職場です。しかし、チームとして班員と協力しながら取締りの成果を得た

ときや、個人として摘発をした際にはやりがい大きく実感できます。また、班員の理解もあり、語学研修等に参加しやすく、自分のやりたいことに挑戦できる職場です。

旅具通関に興味をもっていただき、安全安心な社会のために働くことを目指していただけたら、嬉しく思います。



● 電子申告ゲート



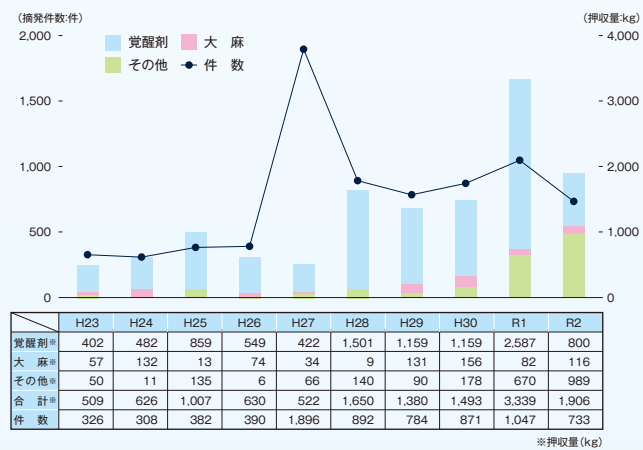
税関では7空港(成田、羽田、関西、中部、福岡、新千歳、那覇)で電子申告ゲートを運用しています。

空港の税関検査場に設置された電子申告端末にてパスポート及びアプリで作成したQRをかざすことにより、これまで紙で提出していた携帯品申告書の電子的提出が可能となります。

また、電子申告端末での手続き時に顔認証用の画像を撮影し、ゲート通過時に同画像での本人確認を行っていますので、手続きが完了したらそのままスムーズにゲートを通過することができます。

更に、人と人との接触を軽減することから、新型コロナウイルス対策としても非常に有効です。

● 不正薬物の摘発件数と押収量の推移



(注)その他とは、あへん、麻薬(ヘロイン、コカイン、MDMA等)、向精神薬及び指定薬物をいう。令和2年の数値は速報値。令和元年は、平成31年1月から令和元年12月を示す。

:: 海港取締

日本の水際を守る



横浜税関監視部統括監視官
(取締部門担当) 付監視官

小坪 佑輔

平成23年II種 行政

私は横浜税関監視部取締部門に所属し、不正薬物やテロ関連物資等の密輸を水際で阻止するため、世界各国から横浜港に入港する外国貿易船等に対する取締りに従事しています。覚醒剤や大麻などの不正薬物の脅威から日本を守るためには、税関による水際での摘発が不可欠です。これまで税関では、一度に約1トンの覚醒剤を押収した事例もあることから、不正薬物を水際で阻止することがどれほど重要なことかが分かります。加えて、国内でオリンピックや国際会議等が実施される際には、テロの脅威から日本を守るための使命も担っており、税関職員が活躍するフィールドは日々広がっています。

取締部門では横浜港での取締りを行うだけでなく、全国の税関の仲間と情報交換を密にしながら、チームプレーで摘発を目指しています。時には海上保安庁などの関係機関と合同船内検査等を実施することもあります。瞬時的確な判断を下さなければならないときがあるなど、困難なことも多々ありますが、日本の水際を

守ることで「安全・安心な社会を実現する」という税関の使命を達成するための仕事は、とてもやりがいを感じられます。



外国人と接する仕事も多いことから、税関は語学に関する研修が充実しており、語学スキルを磨くこともできます。情報収集のため、外国人の船長に質問検査をすることもあるため、語学力を鍛えていこうとする人材が求められています。

また、新型コロナウイルスの世界的な流行の影響で、税関の取締り業務においても改革が進められています。そのため、めまぐるしい変化に柔軟に対応することや、新しい発想がこれまで以上に求められています。なお、取締部門では新型コロナウイルス対策は徹底して行っており、安心して働くことができる環境となっています。

日々変化する世の中に応じて、税関の海港取締も進化していく。そんな刺激的な職場で一緒に仕事ができる日を楽しみにしています！

:: 審理「人」を相手にする仕事



門司税関調査部統括審理官
(情報第2部門担当) 付

谷川 瑞稀

平成28年一般職(高卒者) 事務

皆さん、税関に張込みや捜索、取調べをする部門があることをご存じですか。私が所属する調査部情報第2部門を含む「審理」では、多方面から密輸等の情報を集め、張込みや尾行、捜索や差押えを行い、水際での密輸阻止や事件の全容解明、処分決定等を行っています。イメージしやすいように言えば、テレビドラマで見る刑事のように「捜査」を行う部門で、実際に警察や海上保安庁、麻薬取締部と一緒に仕事をすることも多くあります。

税関ではそれを「調査」と呼びます。例えば、入国旅客や国際郵便物、貿易船舶内等から職員が違法薬物等を発見した場合、その多くが審理に引き継がれ、後の調査を担当するのです。嫌疑者の取調べ、薬物等の配送先調査、違法薬物を偽物にすり替えて行う、いわゆる泳がせ捜査、裁判官から令状を取得しての捜索差押、携帯電話解析、関係者の割り出しと、調査手法は様々で、裁判までの証拠集めと事件の全容解明や処分決定、新たな密輸阻止に全力を注ぎます。

また、審理では些細な情報や少しの違和感を

見逃すことなく、数か月に亘り全国各地を飛び回り、粘り強く調査することで大きな成果を挙げています。その一例として、令和元年熊本県天草市の漁港で覚醒剤約600キロの密輸を摘発した事件等が挙げられます。

密輸犯の年齢や国籍は様々で、背後に大きな組織が潜んでいたり、密輸犯も命がけだったり、相手次第で状況は常に変化し、一つの判断ミスが事件を台無しにしてしまう、時にはそんな緊張感のある場面にも直面しますが、その分審理の仕事に対する熱量とやりがいを全身で感じ、日々勉強することのできる職場だと思います。

既にご存じだった方も、今初めて知った方も、そんな審理で働いてみませんか。



財務省税関の業務

適正かつ公平に関税等を徴収するために
Appropriate and Fair Collection of Duties and Taxes

財務省税関の業務
適正かつ公平に関税等を徴収するために
Appropriate and Fair Collection of Duties and Taxes

通関 多様な業務を通じて沢山の経験ができる職場



神戸税関ポートアイランド出張所統括審査官
(通関第4部門担当) 付審査官

石川 智基

平成17年Ⅱ種 行政

「輸入」「輸出」という貿易を通じて、日本は様々な物品を外国とやり取りしているというのは皆さんもご存知のことでしょう。輸出入される品目は多岐に渡っており、皆さんが普段何気なく使っているものにも外国製品があるはず。そのような外国製品は、税関による輸入許可を受けた後、国内に引き取られたものです。

私が所属する通関部門は、輸出入しようとする貨物に関する申告を受理し、その内容に応じて書類審査や検査を行い、問題がなければ許可をする部門です。輸入貨物の書類審査では、システムを通じて電子的に提出される関係書類について、申告価格や税率は妥当かといった税的な面から、また、積出地から日本に至るまでの貨物の経由地などに不審な点はないかといった関的な面からも審査をしています。検査では、貨物を実際に見ることで申告貨物と一致するかを確認し、貨物によってはコピー商品等の知的財産侵害物品ではないか、不正薬物等が隠匿されていないかなど申告内容に応じた対応をしています。また、関係法令のほか条約や協定についても把握しておくことが重要です。例えば、日本は複数の国や地域との間にEPAやTPPといった経済連携協定を締結していますが、優遇された税率を適用して貨物を輸入したい場合、「協定ごとに定められた基準や手続きを満たしているか」ということも確認する必要があります。

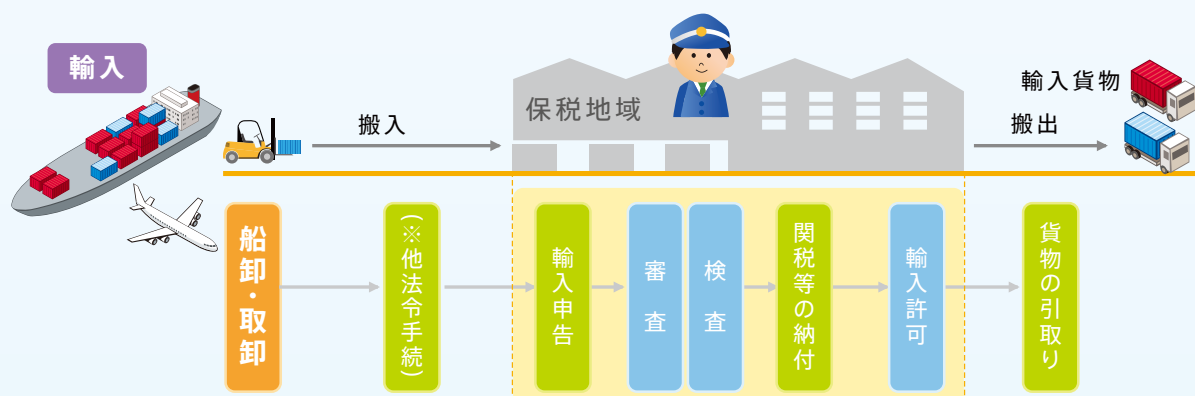
このように通関部門では1件1件の申告に対して多角的な視点から適正な申告かどうかを見極め、公平公正な貿易取引の推進に寄与しています。当然、幅広い知識が求められますが、その

全てを把握しておくことは容易ではありません。未知との遭遇に頭を悩ませることもしばしばあります。しかし、税関には各分野を専門とする部門があり、また、上司

や先輩から適切なフォローを受けられるので、困難な事案でも強力なサポートを受けながら業務に取り組むことができます。また、税関は1つの組織でありながら多様な業務があり、研修制度も充実していますので自身を高めながら色々な経験ができる職場です。興味のある方は是非税関の門を叩いてみてください！



● 貨物到着から貨物引き取りまでの流れ



※他法令手続：貨物によっては、食品衛生法、植物防疫法、家畜伝染病予防法などの関税関係法令以外の手続きが必要になるものがあります。

事後調査



沖縄地区税関統括調査官付調査官

豊里 友弥

平成23年Ⅱ種 行政

向上心と使命感を持ち、貿易の最前線で働く

輸入事後調査とは、輸入された貨物について、その輸入申告が法令に基づき適正に行われていたかを、実際に輸入者の事業所へ訪問し、帳簿書類等を確認して行う税関による税務調査です。IT化により貿易の円滑化が進んでいく中で、事後調査は「適正かつ公平な関税等の徴収」に係る重要な役割を持っています。

具体的には、輸入者の事業所等を訪問し、会社概況や輸入取引に関するヒアリングを行い、保管されている通関関係書類等を精査します。その後も輸入者とのやり取りを繰り返しながら、申告内容に誤りがあれば是正してもらい、今後の適正な輸入申告について指導を行います。

私は、横浜税関と沖縄地区税関で事後調査業務の経験がありますが、調査対象者は、大手商社から個人事業主など多岐に渡ります。会社の規模、業種、商品は様々で、調査の度に新しい発見があります。また、相手方の担当者も貿易のブロから経験のあまりない方など様々ですので、調査職員として関係法令の習熟に加え、貿易実務、会計知識、商品知識、語学など多種多様な

知識を習得しながら、臨機応変に調査を進めていかなければなりません。専門性の高い業務といえますが、調査の際には経験豊富な上司や同僚にフォローしてもらい、チームプレーで業務を進めます。税関には各種研修制度が充実していますので、企業会計、パソコンスキル、語学などについても業務に従事しながら学ぶことができます。専門知識を身に付け、自分自身で申告内容の誤りを発見し、輸入者に内容を理解してもらったうえで調査を終えたときの達成感は格別です。

輸入事後調査業務は、様々な分野に関連する業務なので、ここで得た経験は税関業務で必ず役立てることが出来ます。このパンフレットを読まれている皆さんが税関業務に興味を抱き、いつか共に働ける日が来ることを楽しみにしています。



分類

貿易を支える商品知識のエキスパート

皆さんは税関の「関税分類」と聞くと何を想像しますか？

輸入される物品には、関税という税金がかかります。その関税を算出するための割合を関税率といい、物品ごとに9桁の数字(HSコード)が割り振られ、関税率表という表に定められています。関税分類とは、物品がどのHSコードに所属するかを仕分けることです。

世の中には多種多様な物品があり、全ての物品を正しく分類することは非常に難しく、輸入者だけでなく税関職員も輸入品がどのHSコードに分類されるか判断に迷うことがあります。私の所属する関税鑑査官部門では、その判断についての内外からの問い合わせに対し、輸入品の適正なHSコードを検討し回答をしています。

関税分類には、世界共通のルールが設けられており、輸入品を正しく分類するためには、そのルールを理解することも必要です。私は、判断の難しい物品が、このルールを適用してぴたっと分類できた瞬間にやりがいを感じます。また、物品の素材、加工度合、機能、用途等によってもHS

コードが異なり、関税率が変わるので、正確に物品を把握することも重要です。例えばマグロは、中心部まで十分加熱して味付けしたマグロ缶詰と、加熱や調味をしていないマグロ刺身ではHSコードが異なります。そのためどのような過程を経て製造されたマグロなのかを把握しなければなりません。このように毎日様々な物品に触れ、物品の把握に努めるため、商品知識が身につくところもこの業務の魅力だと思っています。

皆さんも、税関で関税分類の業務をしてみませんか？皆さんと共に仕事をできる日を楽しみにしています。



財務省税関の業務

貿易円滑化を推進するために

Customs has a unique role in the international trade to provide increased security while ensuring facilitation

財務省税関の業務

貿易円滑化を推進するために

Customs has a unique role in the international trade to provide increased security while ensuring facilitation

:: システム 「豊かな未来」の実現に向けて



函館税関総務部システム企画調整官付調査官

平泉 愛

平成16年Ⅱ種 電気・電子・情報

私が所属している函館税関総務部システム企画調整官部門では、税関における様々なシステムの管理・運用を行っています。税関のシステムには、代表的なものにNACCS(輸出入・港湾関連情報処理システム)と呼ばれるシステムがあります。

NACCSは、税関をはじめとする行政機関に対する貿易関連手続き等をオンラインで処理するシステムであり、船舶・航空機の入出港に関する申請などの港湾関連業務や、貨物の輸出入申告などの通関業務の大半が、このNACCSを利用して処理されているため、貿易には不可欠なシステムとなっています。

私は、このNACCSやその他様々なシステムの安定稼働、障害発生時の対応、職員が日々利用しているパソコンの管理やセキュリティ対策、WEB会議やテレワーク等のシステムの管理・運用といった業務を担当しており、職員の業務遂行に必要不可欠なシステムの管理業務や新たなシステムの導入に携わることができ、やりがいを感じています。

また、税関においては、AI等先端技術を積極的に活用し、「貿易の健全な発展」、「安全な社会」、そして「豊かな未来」の実現に役立てていくことが重要と考えており、今後の税関業務の効率化・高度化のためにシステムは重要かつ不可欠な分野となっているため、益々やりがいのある職場になっています。

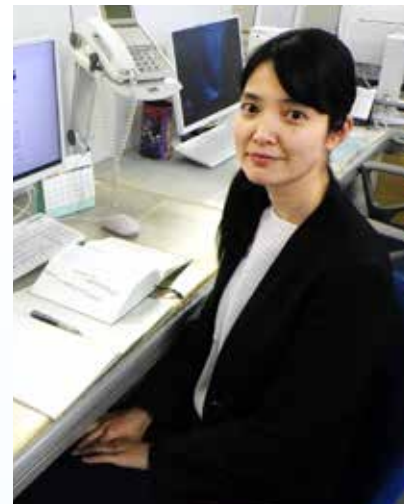
私はこれまで通関、海港取締、旅具通関、情報、総務と多種多様な業務を経験してきました。どの業務も充実した研修や経験豊富な職員の

サポートがあるため、様々な分野に挑戦しながら、自分にあった職場を見つけ、専門性を高めていけることも税関の魅力のひとつです。

税関でやりがいのある仕事を見つけてみませんか。皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。



:: AEO 税関と企業のパートナーシップのもとに



大阪税関業務部認定事業者管理官付調査官

磯田 育恵

平成18年Ⅱ種 化学

米国で発生した9.11同時多発テロ以降、国際物流においてはセキュリティの確保と円滑化の両立が不可欠となっています。この流れを受け導入された「AEO制度」というものを、皆さんはご存知でしょうか。

AEO(Authorized Economic Operator)制度とは、貨物のセキュリティ管理とコンプライアンス(法令遵守)の体制が整備された事業者としてあらかじめ税関長の認定を受けた者(AEO事業者)が、税関手続の簡素化・迅速化等のメリットを得る制度です。税関はAEO事業者への審査・検査等に要する時間や労力を省略できる一方、それらをAEO事業者以外へ重点的に実施することが可能となります。

私の所属する認定事業者管理官部門では、AEO事業者の認定や認定後の定期的な監査等を行っています。AEO制度は税関と民間事業者との間でのパートナーシップの上に成り立つ制度であり、事業者ごとに担当者が割り振られ、各担当者が税関側の窓口代表として対応するため責任は伴いますが、その分やりがいを感じています。事業者の

施設や倉庫を訪問し、法令遵守体制やセキュリティ状況の確認を行うこともあり、事業者側の声を直に聞くということも、とても良い経験となっています。また、倉庫業や通関業などといった企業の事業態ごとに関係する法令が異なり、幅広い知識が必要となるため勉強の日々ですが、諸先輩方のサポートもあるため安心して業務に取り組むことができます。

令和2年からは企業への訪問に代え、web会議システムによる監査等も実施しており、新型コロナウイルス感染症の影響下においても柔軟かつ効率的に業務を実施しています。

その他にも税関には様々な業務があり、皆さんの能力が活かせる分野がきっと見つかるはずです。税関職員の一員として、皆さんと共に仕事ができる日を楽しみにしています。



:: 技術協力 関税技術協力で目指す貿易円滑化



神戸税関業務部首席原産地調査官付調査官

元村 裕美

平成22年Ⅱ種 行政

皆さんは、関税技術協力という言葉を知っていますか。

関税技術協力とは、政府開発援助(ODA)の一環として関税局・税関が行っている、開発途上国の制度改善や近代化に向けた支援のことです。途上国における税関手続の向上は、通関コストや通関時間の短縮等を実現するものであり、途上国にとどまらず、日本や国際社会の貿易円滑化にも貢献しています。

関税技術協力の主な実施形態は、「受入研修」と「専門家派遣」に分かれています。「受入研修」では、途上国税関職員を日本に受け入れ、研修を通じて日本の制度や知見を伝達し、「専門家派遣」では、日本の職員が海外へ派遣され、ワークショップ等を通じて制度改善や能力向上に向けた助言を行います。

相手国のニーズに寄り添うことは決して簡単ではありませんが、税関では、関税技術協力に携わる職員を育成するための研修が充実していますので、語学や専門性に不安がある人も、経験豊富な上司のサポートの下、スキルアップしながら業務に臨むことが可能です。

私は神戸税関で関税技術協力の支援チームに参加し、受入研修での講師経験を経て、短期専門家としてベトナムとフィリピンに派遣されました。歴史・文化・経済状況が異なる相手国の実情を知り、彼らが抱える課題と国際的なルールとのギャップを見つけながら、何をどんな手法で伝えるべきか派遣メンバーで模索する毎日でした。プレッシャーもありましたが、相手国と一緒に

なって課題に向き合った時間は、今の私の財産となっています。税関には幅広い仕事があり、関税技術協力もその一つです。様々な挑戦ができる税関で、あなたのスキルと可能性を伸ばしてみませんか。



● NACCSとは? NACCS(Nippon Automated Cargo and Port Consolidated System)は、入出港する船舶・航空機及び輸出入される貨物について、税関その他の関係行政機関に対する手続及び関連する民間業務をオンラインで処理するシステムです。



※NVOCC(Non Vessel Operating Common Carrier) 自らは船舶などの輸送手段を保有せず、運送業者として輸出入者から貨物を引き受け、船会社を利用して海上運送を行う者。